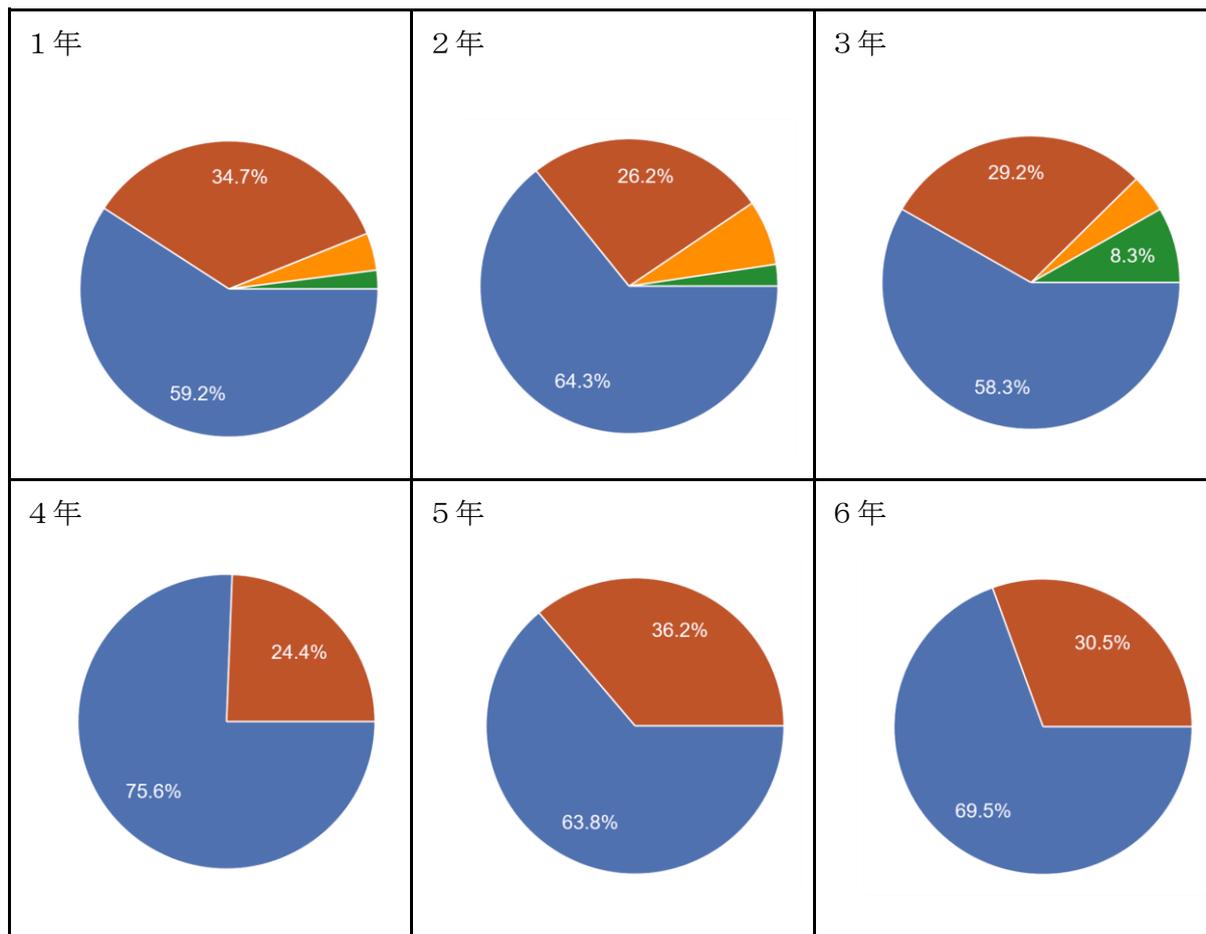


1学期児童アンケート結果とまとめ

問1 学校は楽しいですか。

- 1.いつも楽しい
- 2.だいたい楽しい
- 3.あまり楽しくない
- 4.楽しくないことが多い

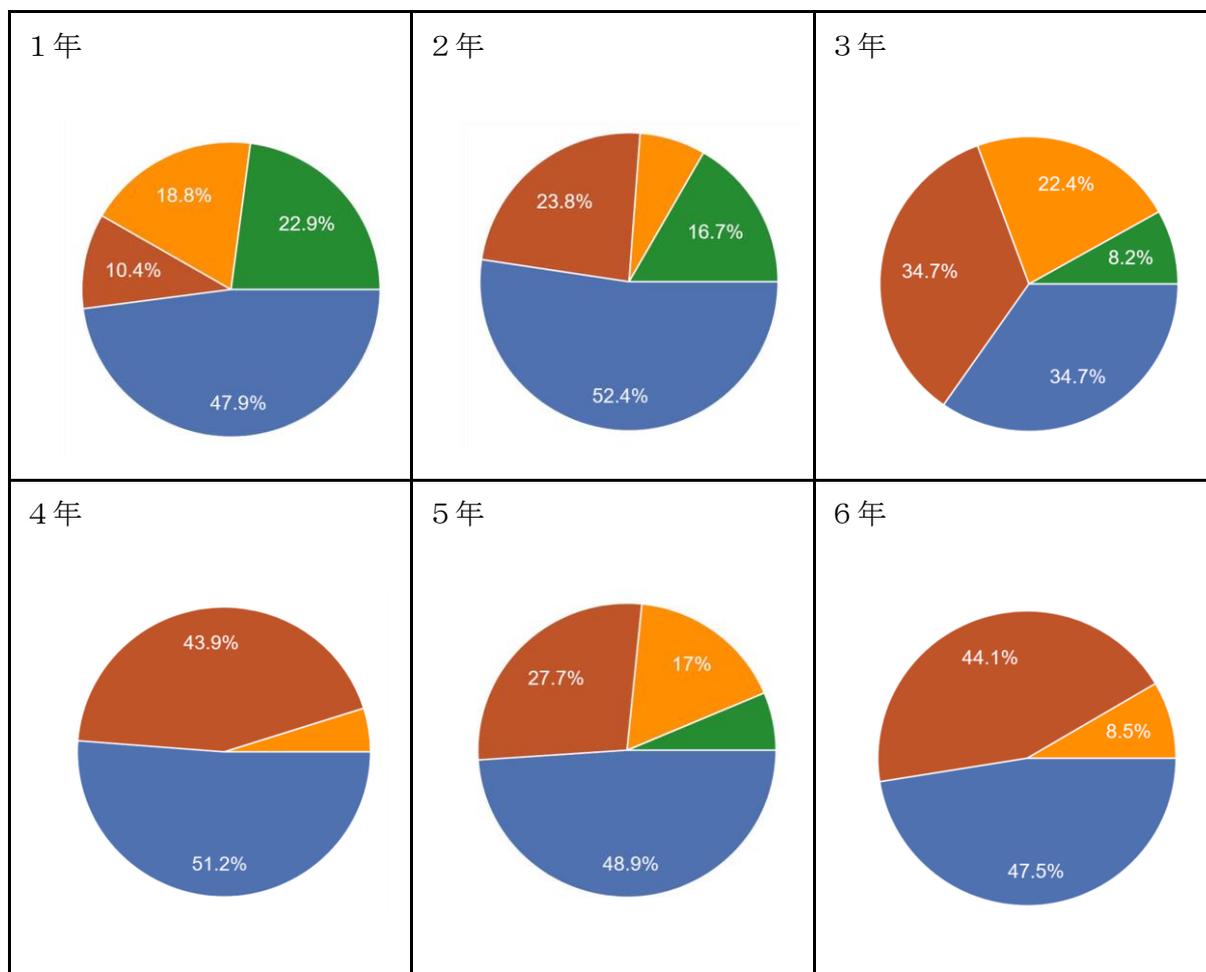


【まとめ】

- ・「いつも楽しい」「だいたい楽しい」と肯定的な回答が全校で94.7%であった。
- ・「あまり楽しくない」「楽しくないことが多い」と否定的な回答は5.3%で、割合的には昨年度とほぼ同じである。その理由として、「友達に嫌なことをされる」（1・2年）が一番多い。以降「勉強が苦手」（2・3年）「学校の決まりが厳しい」（1年）「たくさんの人といるのが苦手」（1・3年）となっている。
- ・「友達に嫌なことをされる」については、「いじめアンケート」でも対応しているが、今後とも継続観察を要する。
- ・「たくさんの人といるのが苦手」の子についても、日常の様子や表情の変化を見落とさず、時々その子の気持ちを聞くなどして対応していく必要がある。

問2 学校へ行きたくないと思ったことがありますか。

- 1.ない
- 2.ほとんどない
- 3.週に1回くらいある
- 4.よくある

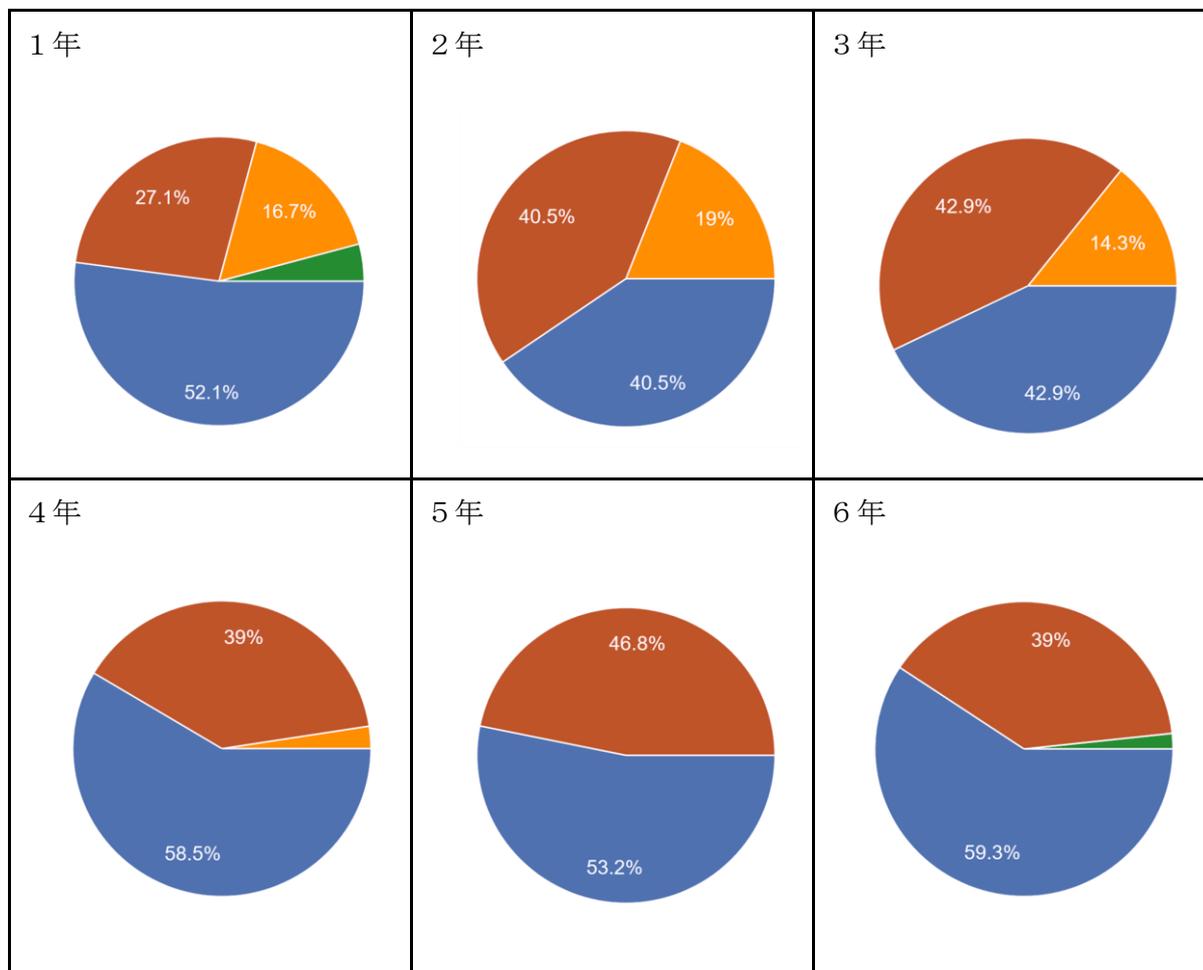


【まとめ】

- ・学校へ行きたくないと思う時が「ない」「ほとんどない」と肯定的な回答をしている児童の割合が90%を超えている学年は、4年生と6年生である。
- ・1年生と3年生で「週に1回くらいある」「よくある」と否定的な回答をしている児童の割合が高い。
- ・否定的な回答をした児童の理由として、多かったものは、低学年では「友達と喧嘩をしたり気まづくなったりしたから」や「苦手な授業あるから」が多く、高学年では「眠いから」や「休み明けの月曜日など」が多かった。
- ・その他の理由として「スポ少で疲れた」とか「無視された」といった理由を挙げる児童も高学年にいた。
- ・学級内における人間関係づくりや、楽しくわかる授業の実践など、学校の力で解決できる問題については教員も改善に努めていきたい。一方、家庭での生活習慣やゲームやSNS等の依存も理由として挙げられている。学校保健目標にもあるように「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みやゲームやスマートホンの使用について、家庭への協力を呼び掛け保護者の協力を得られるようにしていくことも求められる。

問3 学校の勉強がわかりますか。

- 1.よくわかる
- 2.だいたいわかる
- 3.あまりわからない
- 4.わからない

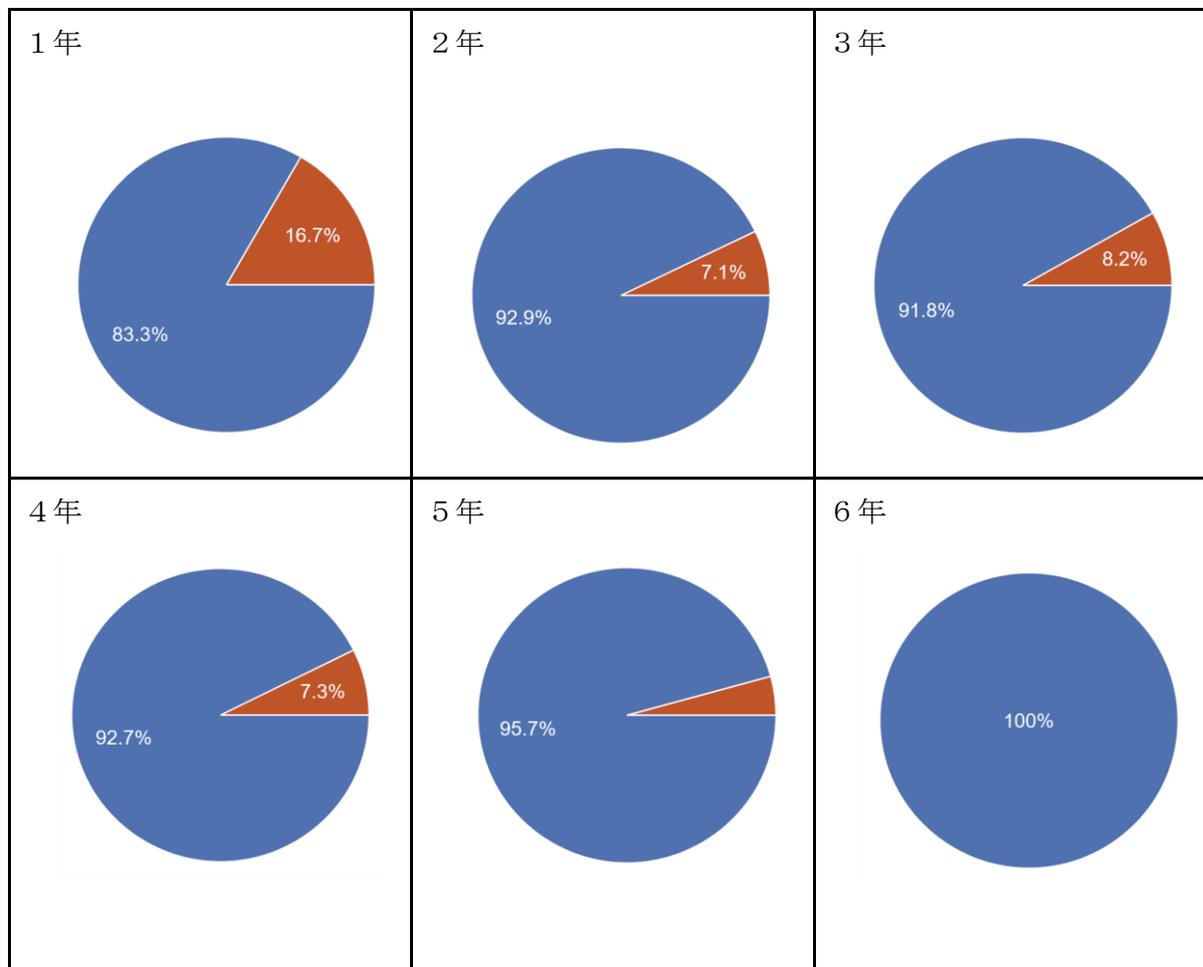


【まとめ】

- ・学校全体で見ると約93%の児童が、学校の勉強が「よくわかる」「だいたいわかる」と肯定的に回答している。
- ・「あまりわからない」「わからない」と答えた児童は、約7%で低学年に多い。
- ・高学年になるにつれ、「わからない」と答えにくくなることが考えられる。
- ・低学年の学習の基礎にたって、高学年の学習が展開されていくので、低学年からの学力の定着が大切になる。そのためには、「わかる授業」「楽しい授業」「できた実感できる授業」により主体的に学ぶ意欲が高められるように全職員で意識して実践していきたい。
- ・急速に進んだ「GIGA構想」（一人一台パソコン）を有効に使い、基礎学習及び学び合う学習が充実していくように、引き続き工夫した活用をしていきたい。

問4 困ったときに相談する人がいますか

● 1.いる
● 2.いない

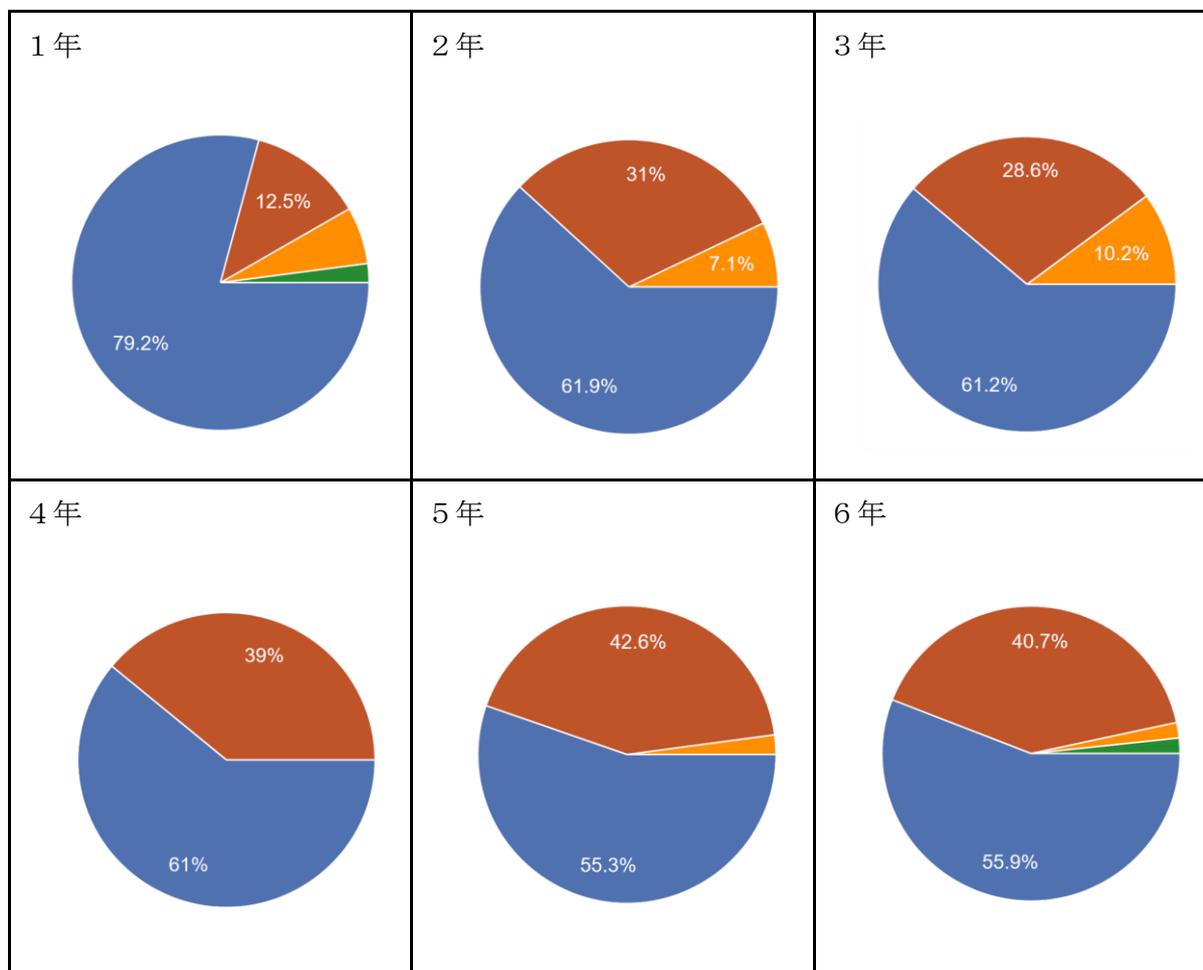


【まとめ】

- ・全体では約93%の児童が「いる」と答えている。
- ・学年におよそ3・4人の児童が「いない」と答えている。（6年生を除く）
- ・相談する相手が多かった順に、どの学年も「父母」「友達」「先生」の順になっている。「父母」に相談すると答えた児童の割合は、とても高かったが「友達」「先生」と答えた児童の割合はほぼ同じである。学校での人間関係や学級集団作りがうまくいっていることがうかがえる。
- ・また、「いない」と答えた子を明らかにし、普段の様子を気にかけてたり、場合によっては養護教諭やスクールカウンセラーとの面談等も取り入れたりしていくことも考えていきたい。

問5 しっかり掃除できましたか。

- 1.よくできた
- 2.できた
- 3.あまりできなかった
- 4.できなかった

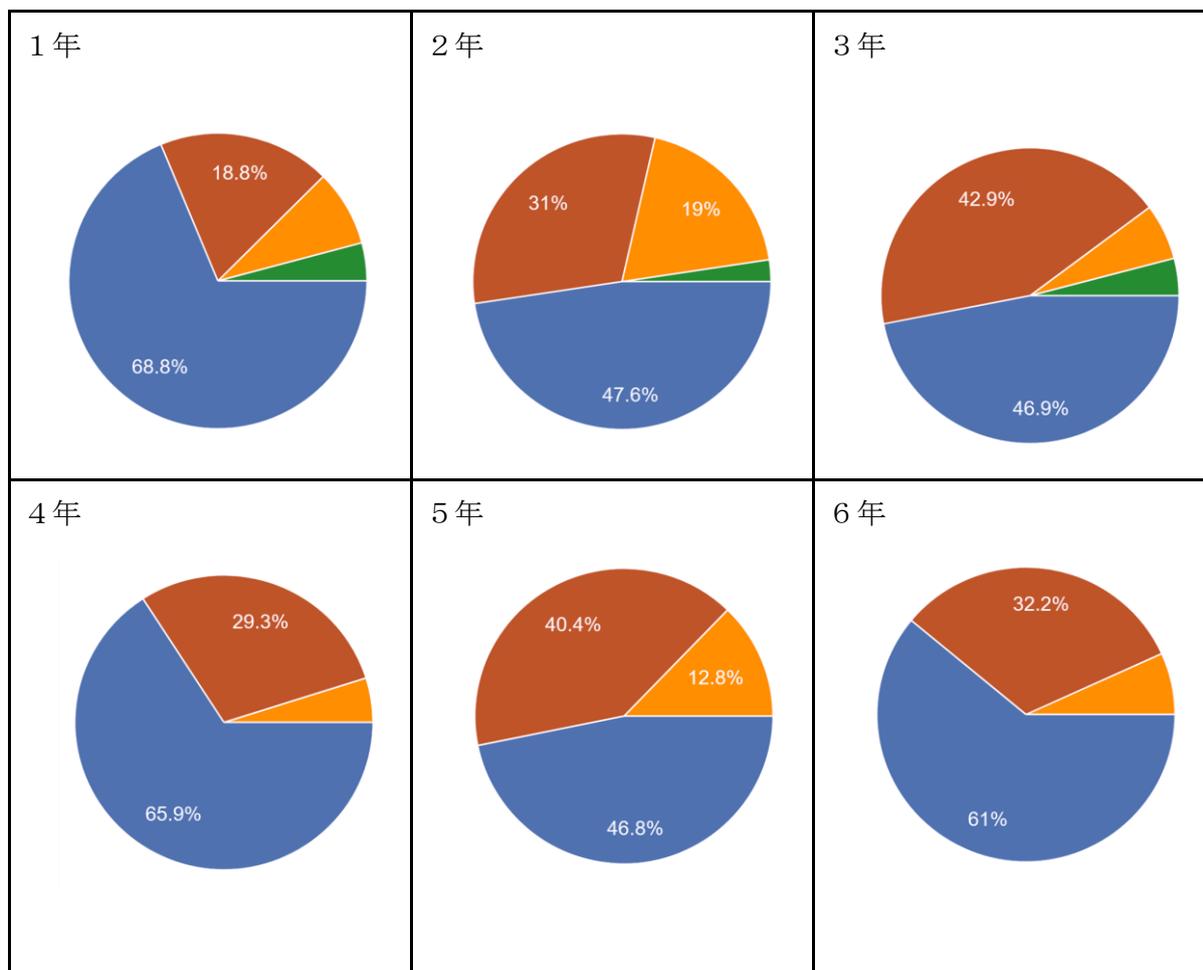


【まとめ】

- ・ 4年生は、「よくできた」「できた」と肯定的な回答を行なった児童が100%である。
- ・ 4年生以上は「よくできた」「できた」と回答する児童の割合が95%以上で高い。
- ・ 子どもたち自身では、比較的掃除をよく行っていると評価している。校舎内を回っていても、よく取り組んでいる姿を見ることができる。
- ・ 一方、教職員評価にあるように、無言清掃を行うことや時間いっぱい行うことについては、これからも指導が必要である。引き続き、子弟同行でそうじの指導に当たってきたい。

問6 進んであいさつができましたか。

- 1.よくできた
- 2.できた
- 3.あまりできなかった
- 4.できなかった

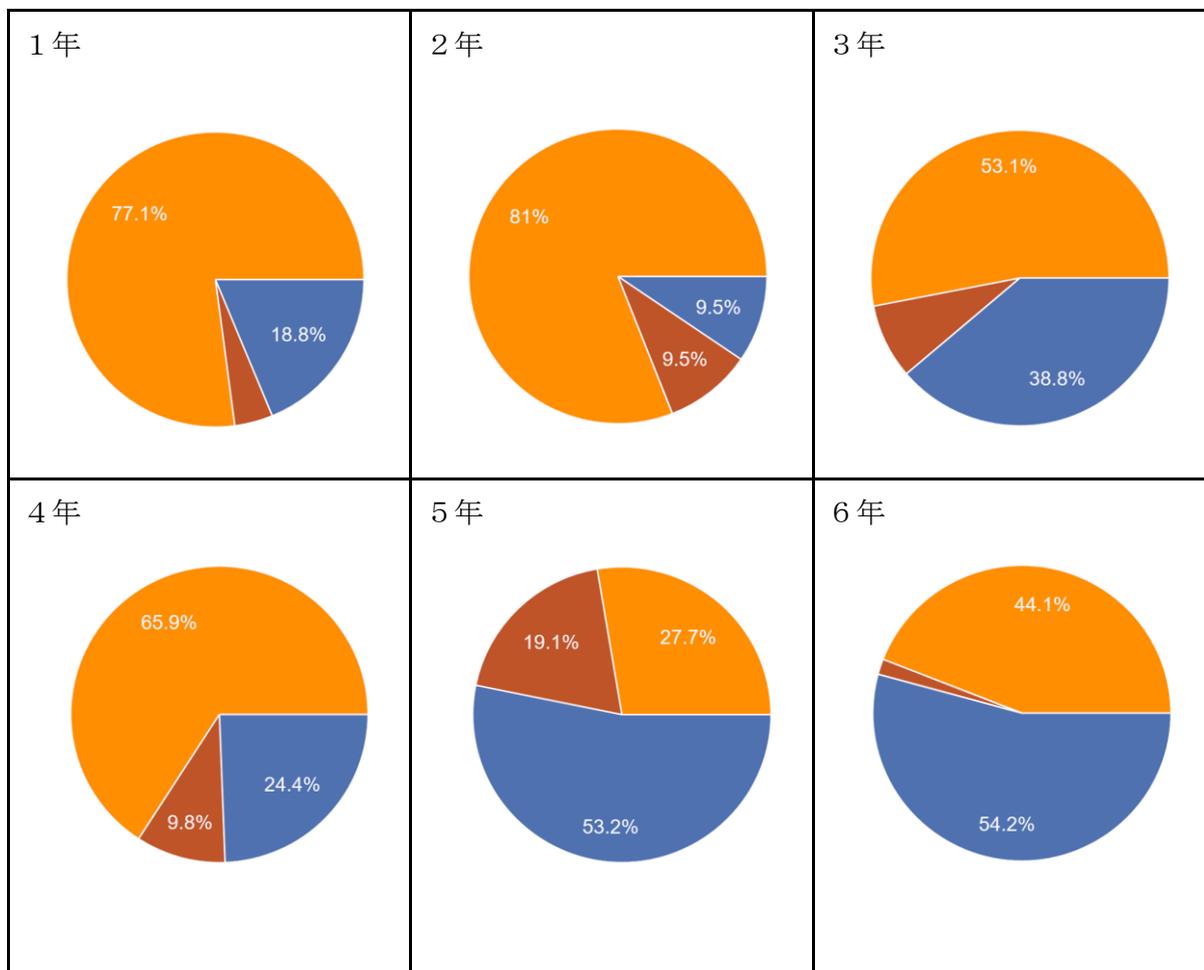


【まとめ】

- ・ 4年生と6年生の児童が「よくできた」「できた」と肯定的な回答をしている児童の割合が90%を超えている。
- ・ 全体では80%を超える児童が肯定的な回答を示している。
- ・ 児童会の取り組みも成果をあげてきていることがうかがえる。互いに評価し合う良い取り組みであると考えられる。
- ・ 玄関や教室に入る時だけでなく、通学路や廊下ですれ違う人及び来客にもあいさつができるよう、日ごろからの指導を行っていく必要がある。

問7 携帯電話（スマホ）を持っていますか。

- 1.自分のをもっている
- 2.兄弟姉妹で一緒のものをもっている
- 3.もっていない

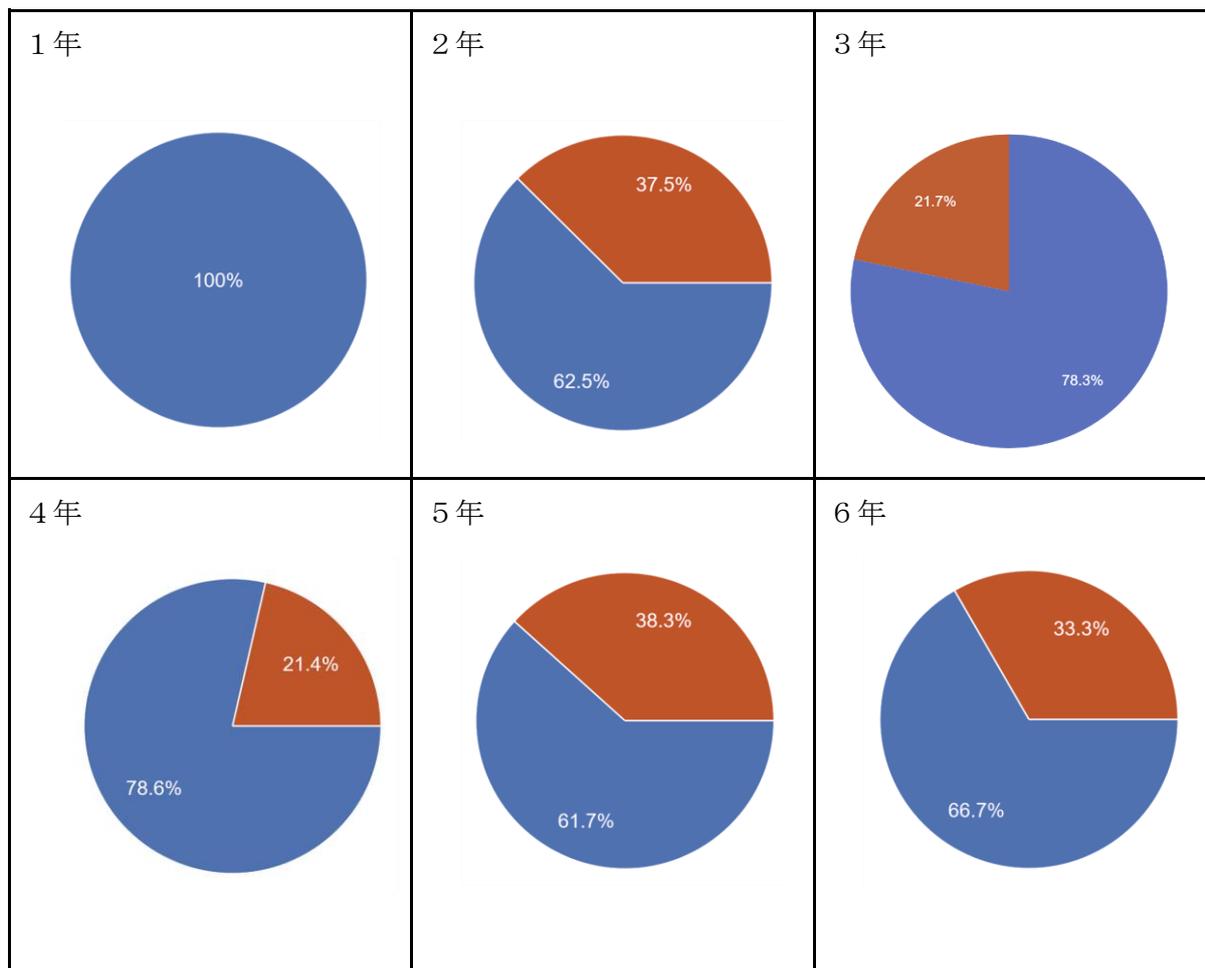


【まとめ】

- ・ 3年生以上からたくさんの児童が所持している。
- ・ 課金やLINEなどによるネットトラブルが危惧される。
- ・ 携帯やスマホの所持率は年々上がり、低年齢化していくことが予想される。児童が購入することはできないので、「持たせる必要があるのか」「正しい使い方を理解しているのか」「約束はどうするのか」等、携帯・スマホの購入時における管理面については保護者の指導力を必要とするところが多い。

問8 持っている人は、親とルールを決めていますか。

- 1.決めている
- 2.決めていない



【まとめ】

- ・ルールを決めていると回答した児童がほとんどである。
- ・決めているルールの多い順に「使って良い時間を決めている」「連絡を取って良い相手が決まっている」「勝手にアプリをダウンロードしない」となっている。
- ・その他のルールとして、高学年になると「やりとり（LINEなど）は親に見せる」とか「悪口を言わない」「LINEをしない」「課金をしない」といったルールを決めている児童が増えている。また、「勉強をしたら使える」といった褒美的なルールもあった。
- ・今の時代、携帯やスマホを持たせないということは時代にそぐわない。ネットトラブルを防止するためにも、学級指導を中心にルールやマナーを教えていく機会を多く持つことが求められている。

- ・いじめや不登校に関する悩みや問題行動等、児童からの危険シグナルを察知し、問題行動や家庭との深刻なトラブルを未然に防止し、より良い問題解決につなげる。
- ・学校における児童の様子全般について把握し、事後の学習活動や学級活動の指導・改善に役立てる。
- ・特別な支援が必要と思われる児童の状況を職員全体で共通理解しながら、より良い改善策を考え組織的に対応する。